

## 道本部労災職業病部会が労働局交渉 振動障害・じん肺の予防対策などで追及

5月15日、道本部労災職業病部会は北海道労働局交渉をおこないました。交渉には部会3役と道本部の森国委員長、宮澤書記長など9人が参加し、労働局からは労働基準部労災補償課・藤平労災管理調整官、同健康課・十倉課長、渡邊副主任労働衛生専門官、同監督課・土谷主任監察監督官、総務部総務課・伊藤課長補佐などが対応しました。

振動障害の防止対策について、通達が発出されてから14年が経過しているのに新規患者数は減少せず政策効果が見られないことを厳しく追及し、道内に1台もない「3軸合成」振動レベル測定器を配備するよう強く求めました。じん肺予防対策では、道内で施工されているトンネル工事が40件で令和4年度に36件の監督を実施したこと、また、じん肺管理区分申請は121件で決定件数(管理1をふくむ)が114件であることも明らかにされました。

そして石綿健康管理手帳について、令和4年度の申請件数(78件)と発給件数(78件)を初めて公表しました。

このほか、「建設アスベスト給付金」制度、振動障害の「適正給付管理」と社会復帰対策、労働行政の体制強化などについてもやりとりしました。

### 1～4月の新規認定31件

道本部労災職業病部会は1～4月の新規認定のとりくみなどをまとめました。新規認定件数は振動障害・9件、じん肺・4件、じん肺の遺族補償・4件、騒音性難聴・14件の合計31件で、新たに建交労に加入した組合員が12人でした。

### 夏季一時金要求を提出 北海道鉄道本部

北海道鉄道本部は5月12日、JR北海道に夏季一時金の要求を提出しました。要求は基準内賃金の3か月分で、55歳以上の社員について減額前の基本給で算出すること、エルダー社員の乗率2分の1を行使しないことなどを求めています。

### 北海道鉄道本部が春のカレイ釣り交流会

北海道鉄道本部の恒例行事、春のカレイ釣り交流会が5月2日に小樽・祝津沖でおこなわれました。前日からの風の影響で出航時間を1時間遅らせての釣行となりウネリも残る状況でしたが10名の仲間たちが春の一日を楽しみました。昨年は大型のマガレイに歓声が上がりましたが今年は魚影も薄く、釣れるカレイも標準サイズで底荒れ後の影響でエサの喰いも悪く苦戦を強いられました。このような状況のもとでも優勝は総重量で8.2kgを釣り上げたベテラン釣り師の小樽支部・猪股さん、2位には溪流釣りで鍛えた手返しの速さで7.0kgを釣った追分支部・大内さん、3位には多くの魚種を狙って各地に足を運んでいる小樽支部・加藤さんが6.9kgを釣り上げました。身長賞は大型カレイの釣果がないなかで丸々と肥えたホッケを釣った猪股さんがダブル受賞となりました。船上からはロッククライミングの練習場となっているオタモイ海岸の崖壁が目の前に広がり、日和山灯台と鯨御殿など風光明媚な小樽の海岸線を楽しむことができました。6月には伊達市黄金沖での釣行が計画されています。